

〔研究論文〕

地域社会とのかかわりを生かした生活科・総合的な学習の時間の実践的研究

Life Environmental Study and Period for Integrated Study to Engage Community

花 島 秀 樹

Hideki HANASHIMA

福岡教育大学教育実践講座

(2019年1月31日受理)

平成29年3月31日に告示された学習指導要領は、①「社会に開かれた教育課程」を重視すること、②知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること、③豊かな心や健やかな体を育成することを基本的なねらいとして改訂がなされている。

本稿では次期改定学習指導要領に示された、生活科及び総合的な学習の時間の課題やカリキュラム・マネジメントの要点及び拙稿(2017)で指摘した課題を踏まえて、生活科と総合的な学習の時間における地域住民との関わりを生かした単元構成や他教科との関連の重視及び思考ツールを活用した平成29年度の北九州市立大蔵小学校における実践事例を報告する。

キーワード：地域社会 他教科との関連 思考ツール カリキュラム・マネジメント

1. はじめに

平成29年に告示された小学校学習指導要領解説生活編の改定の趣旨において、平成20年度に告示された現行学習指導要領の生活科の成果を「身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたこと・楽しかったことなどを表現する活動を大切に学習活動が行われており、言葉と体験を重視した改定の趣旨がおおむね反映されている。」と指摘した上で、「幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関連性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力(特に『思考力、判断力、表現力等』)が具体的になるように見直すこととした。」という改定の基本的な考え方が述べられている。また、生活科の教科目標の趣旨において、深い学びの要点となる生活科の見方・考え方について、「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事である。」と整理されている。

また、総合的な学習の時間については、「探究的

な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。」という改定の基本的な考え方が示されている。なお、指導計画作成上の配慮事項には、総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画の作成に関して、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの重要性を指摘した上で、①内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことが強調されている。

ところで、筆者は拙稿(2017)において、地域の自然(大蔵川)を生かした総合的な学習の時間の事例報告を行った。ここでは、子どもたちが地域の自然のすばらしさを実感するとともに、学習活動を通して、ふれ合った地域の方々の大蔵川に対する思いや願いを認識し、自ら環境の保全に向けて行動化する意欲を高めていったこと。また、探究のプロセスを重視した授業展開によって、子

供たちが思考ツールやポートフォリオを活用して、自己の学習活動を振り返って次につなげようと主体的に学んだり、他教科で学んだ見方・考え方を働かせて探究のプロセスの「課題の設定」や「整理・分析」する学習活動に粘り強く取り組んだりする姿が認められるようになったこと等を成果として指摘した。なお、探究の過程における思考ツールの効果的な活用場面の検討と総合的な学習の時間への接続を意識した生活科のカリキュラム開発を課題として提示した。そこで、本稿では次期改定学習指導要領に示された、生活科及び総合的な学習の時間の課題、カリキュラム・マネジメントの要点、拙稿（2017）で指摘した課題を踏まえて、生活科と総合的な学習の時間における地域住民との関わりを生かした単元構成や他教科との関連の重視及び思考ツールを活用した平成 29 年度の実践事例について報告する。

2. 研究の内容

(1) 実践校の概要

筆者が平成 28・29 年度に校長として在籍した実践校の北九州市立大蔵小学校(以後大蔵小と略記)は、明治 45 年に尋常小学校として開校し、創立 105 年を迎えている。北九州市の中央部に位置しており、校区の中心を板櫃川が流れている。東西方向は丘陵地であり、川を中心に自然環境が大変豊かである。また、本校区は八幡製鉄所の創業と共に発展してきたが、製鉄所の規模縮小に伴う人口流出のため、ピーク時の昭和 18 年には児童数 2,853 名、学級数 46 を数えたが、平成 29 年度には児童数 214 名、学級数 10 (通常学級 9, 特別支援学級 1), 教職員数 20 名の小規模校となっている。北九州市の中でも八幡東区は、地域住民の高齢化が進んでいる。本校区内においては、地域住民の 44%が 65 歳以上であり、14 歳以下の子どもは 8%に過ぎず、高齢化率が特に高い地域である。なお、地域住民は、歴史のある本校に対して強い愛着をもっており、本校の教育活動に対してゲストティーチャーやスクールヘルパー、ボランティアとして数多くの方々が積極的に関わっている。また、これまで本校は、初等理科教育全国大会や福岡県教育委員会委嘱研究発表会、北九州市社会科教育研究大会などの数多くの研究大会を開催している。さらに、学校給食文部大臣表彰、九州図書館教育コンクール優秀校、福岡県 NHK 合唱コンクール金賞受賞などの実績を残している。平成 20 年度からは、北九州市教育委員会「学校大好きオ

ンリーワン事業」の研究委嘱を受けて、3 期 9 年間にわたり「総合的な学習の時間」の実践研究に取り組み、その成果を毎年研究発表会の開催を通して広く批正を仰いできた。平成 29 年度からは、新たに北九州市教育委員会の「コアスクール事業」の研究委嘱を受けて、地域の自然や人的資源を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発や学び合う場面での思考ツールの活用、生活科をはじめとする各教科との関連を重視した学習展開の工夫等に力点を置いた実践研究に取り組んでいる。

(2) 研究の着眼点

① 大蔵のまちのよさを再認識するための単元構成

児童が大蔵のまちのよさを再認識し、地域をより一層愛することができるようにするため、大蔵の地域の人・もの・こと・自然を教材とした単元展開を行う。その際、児童自身はその領域における自分の認識を明確にすることのできる導入を行ったり、他の地域と交流を行う活動を位置付けたりすることを通して、これまでもっていた見方や考え方を深めることができるようにする。

また、学年間・教科間での関連を明確にした実践を行うために、総合的な学習の時間で育てる子どもの学習過程を明確にする。

② 他教科との関連を重視したカリキュラム作成

生活科・総合的な学習の時間における学習が他教科の活用や補完の場となり、確かな学力を身に付けることができるようにするために、他教科との関連を重視した年間カリキュラムを作成し、総合的な学習の時間を学習する段階で、関連のある他教科で学習した内容が既習であるか未習であるかを明らかにする。さらに、その単元の関連について、内容的側面をもつものか、思考ツールの活用と関連するような方法的側面をもつものかを検討する。これらのことを踏まえて、教師がこのカリキュラムを実践していくことを通して、生活科・総合的な学習の時間の実践をより充実したものにするとともに、主体的な学習態度を児童に身に付けさせることを意図する。

(3) 生活科の実践事例

(単元名「とびだせ！大くらたんけんたい」

総時数 35 時間、対象 2 年 2 組児童：21 名)

本単元は、学習指導要領の内容 (3)「地域と生活」、(4)「公共物や公共施設の利用」、(8)「生活や出来事の交流」を受けて設定したものである。

地域の人々と関わり、その関わりを通して分かったことや児童一人一人の心に残った出来事を友

だちと協力してまとめ、伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることの楽しさを認識するとともに、地域の人々と進んで交流することをねらいとしている。また、本単元では、地域のよさや地域に対する思いを伝え合う活動を重視した。そこで、国語科の学習と関連させ、友だちに自分の伝えたい内容が伝わるように、順序に気を付けたり、適切な言葉を選んだりするなど、伝え方を工夫することができる活動を設定する。

なお、表1に本実践の指導計画を示す。

表1 生活科の学習指導計画(総時数 35 時間)

<p>第一次 大蔵の町たんけん計画を立てよう(2)</p> <p>1 大蔵の町にはどんな場所があるかを知っていることを出し合う。①【関】</p> <p>2 大蔵の町で探検してみたい場所を出し合って、町たんけん計画を立てる。①【関】</p>	
↓	
<p>第二次 大蔵の町たんけんしよう(24)</p> <p>1 大蔵方面に町たんけんに行く。②【関】【思】</p> <p>2 大蔵方面の町たんけんを振り返る。①【気】</p> <p>3 景勝町・豊町方面に町たんけんに行く。②【関】【思】</p> <p>4 景勝町・豊町方面の町たんけんを振り返る。①【気】</p> <p>5 牛坂方面に町たんけんに行く。①【関】【思】</p> <p>6 牛坂方面の町たんけんを振り返る。①【気】</p> <p>7 羽衣方面に町たんけんに行く。②【関】【思】</p> <p>8 羽衣方面の町たんけんを振り返る。①【気】</p> <p>9 市民センターに町たんけんに行く。②【関】【思】</p> <p>10 市民センターを町たんけんしたことを振り返る。①【気】</p> <p>11 行ってみたい場所を決めてグループに分かれ、一度目の町たんけん計画・準備をする。①【関】</p> <p>12 各グループで町たんけんに行く。②【関】【思】</p> <p>13 一度目の町たんけんを振り返る。①【気】</p> <p>14 一度目の町たんけんのお知らせをする。②【思】</p> <p>14 もっと仲良くなりたい人やもっと詳しく知りたいことを整理して二度目の町たんけんの準備・計画をする。①【関】</p> <p>15 各グループで二度目の町たんけんに行く。②【関】【思】</p> <p>16 二度目の町たんけんを振り返る。①【気】</p>	
↓	
<p>第三次 ぼく、わたしがなかくよくなったまちの人のことをしょうかいしよう(9)</p> <p>1 町たんけんで見つけたことやなかくよくなった人のことを友達に紹介する計画を立てる。①【思】</p> <p>2 町たんけんで見つけたことやなかくよくなった人のことを友達に紹介する準備をする。④【関】【思】</p> <p>3 町たんけんで見つけたことやなかくよくなった人のことを友達に紹介し合う。③【思】【気】(本時3/3)</p> <p>4 学習を振り返り、親しくなった地域の人にお礼の手紙を書く。①【気】</p>	

(3) -1 大蔵のまちのよさを再認識させる指導の実際

単元の導入に際して、1年生の時に大蔵川や勝田公園で遊んだことを振り返ったり、大蔵のまちについて知っていることやこれまでに行ったことのある場所などを校区の地図を見ながら意見交換したりして、自分たちの住んでいる大蔵のまちに関心を向けるようにした。普段住んでいる町とはいえ、買い物については郊外の大型ショッピングモールを利用するなど、大蔵の商店街での買い物の経験も少なく、自分の家のまわりのごく狭い範囲の地域や遊んだことのある公園くらいしかほとんどの児童が知らない状況であった。

そこで、校区を①大蔵の商店街、②景勝町・豊町、③羽衣、④牛山の4方面に分けて、2年生全員で、地域探検を行った。①大蔵の商店街方面では、ラーメン屋の前でにおいを感じたり、大蔵公園で除草作業をしている方々に出会ったり、市民センター前では、館長があいさつをしてくれた。②景勝町・豊町方面では、醤油を作っているAさんに出会ったり、突然の雨で当初訪問を予定していなかった「B酒造」で雨宿りをさせてもらったりした。③羽衣方面では、坂道や階段が多く、道端にカニが生息していたり、栗がたくさん落ちていたりしたことに関心をもっていた。④牛山方面には、行ったことのない児童も多く、かなり急な勾配の坂があることやそれを登りきった牛山の頂上から見える景色の美しさに感動していた。また、一緒に引率してくれた地域の「見守り隊」のCさんから、数年前までそこに牧場があったという「牛山」の名前の由来を聞き、他の校区内の地名の由来についても強い興味・関心をもっていた。

さらに、地域にある公共施設「大蔵市民センター」にも学級の児童全員で訪問した。1回目の地域探検の際にも話をしてくれたD館長や職員のEさんに施設内を案内してもらったり、インタビューに答えてもらったりした。また、市民センターの講座に参加している方とふれ合ったりすることを通して、大蔵のまちの人々と関わる楽しさも味わうことができていた。

本実践における5回の地域探検ごとに、見つけたことや感じたこと、お気に入りの場所などをピンクのカードに記入し、もっと行ってみたい所や不思議に思ったことなどを青いカードに書き、校区地図に貼っていった。このことを通して、大蔵のまちには興味深い場所や自然がたくさんあることを実感するとともに、もう一度行ってみたいところや話してみたい人などを見付けることができていた。

話し合いの当初には、行ってみたいことのない場所や珍しい場所などに目が行きがちであったが、「人」に着目している子の発言や振り返りカードを取り上げ、価値付けることで、人との関わりに着目させて次の活動につなげていった。

グループによる1回目の探検では、事前に挨拶の練習をしたり、質問事項を考えたりするなど、十分に事前取組を行った後、探検に出かけた。地域探検から帰ると、振り返りカードの記述をもとに、見つけたことや感じたことを伝え合う児童の姿が見られた。このグループでの1回目の地域探検後、それぞれに発見したことや気付いたこと、

感じたことなどを大蔵の「すてき」と題して児童間で相互交流する場（図1）を設定した。



図1 大蔵の「すてき」交流会の様子

1回目の地域探検や大蔵の「すてき」を交流する場の中で感じた「もう一度見たいこと」、「もっと知りたいこと」、「今度は〇〇をしてみたい」ということを整理して、グループによる2回目の地域探検を行った。児童は、1回目の地域探検を経験して、2回目はより明確な目的意識をもって地域探検を行っていた。お店の方も2回目は、1回目より児童の質問内容に沿ってより詳細に話をしてくれたり、体験（図2）をさせてくれたりするところもあった。



図2 饅頭づくりを体験する様子

これらの活動を通して、地域にある施設の様子を知るだけでなく、地域の方々とふれ合うことを通して、大蔵のまちのよさを再認識したことを地域探検後の振り返りカードへの記述からも読み取ることができた。

(3) -2 他教科等との関連を重視した指導の実際

本單元におけるグループによる地域探検では、お店の人にインタビューする際に、国語科「話す・

聞く」の單元「ともこさんはどこかな」で学習したことを想起させ、大事なことを聞き落とさないようにメモをとりながら聞くようにした。

事前の取組では、質問内容を考え、質問事項が重複しないようグループで話し合い、自分の質問をカードに書き込んで準備した。メモは、以前の国語の学習で、簡単で短い単語で書かないと書ききれなかったことを児童に想起させた。また、大蔵のまちや人の「すてき」を伝え合う場面では、国語科「話す・聞く」の單元「大すきなものを、教えたい」で学習した「丁寧な言葉で話す。」「順序を考え、はじめ、中、おわりの構成で話す。」ことを想起させ、発表原稿を書いて、大蔵のまちや人の「すてき」お知らせ会に臨むようにした。また、児童が見付けた「すてき」とはどんなものであったのかを見取って価値付けしたり、「わたしが見付けたすてきの一つ目は、～」などといった話型の例文を示したりしながら発表内容を整理する際に個別支援を行った。また、国語科で学習した「話し方、聞き方」を掲示しておくことにより、そのことを意識しながら話したり、聞いたりできるようにした。さらに本單元では、絵と文の振り返りカードだけではなく、活動に応じて様々な振り返りカードを使用した。その中で、児童の気付きを見取り、それらにコメントをつけて返すことで、児童の気付きへの価値付けを行うことができた。

(3) -3 生活科の実践のまとめ

本実践後の12月末の個人懇談会で、保護者から、生活科の地域探検で訪問したことのある「F商店で買い物しようと子どもから言われます。」「Gお茶屋さんにお茶を買いに行こうと子どもから言われ、行ってきました。」「家族でHラーメンに食べに行きました。」などといった声も聞かれた。また、3学期単元「あしたへジャンプ」の学習の中では、小学校に入学してからの自分の成長を振り返る児童の発言の中で、「まちの人と仲良くなった」、「まちの人と話をするようになった。」というものもあった。このように、子どもたちは大蔵のまちのよさを再認識していったことや地域への関わり意識の日常化が促されたことを指摘することができる。なお、本学習活動は、3年生の総合的な学習の時間の單元「じまん発見！大くらたんけん隊～ここがすごいよ、わたしたちのまち～」へつながる実践となっている。

また、学習後のアンケートでは、「国語などで勉強したことが、生活科のお勉強でつかったり、生活科で勉強したことを国語などでつかったりできましたか。」という設問に、83.8%の児童が「と

ても役に立つ」、「役に立つ」と回答している。「友達と『伝え合い』をして、自分が気付いた大蔵のまちや人のすてきがふえましたか。」という設問には、94.5%の児童が「たくさんふえた」、「ふえた」と回答している。この結果からも、生活科と他教科との関連を生かした指導が展開されるとともに、地域への親しみや愛着をもち、進んで人と関わることができるようになったことが認められる。

(4) 総合的な学習の時間の実践事例

(単元名「大蔵のまちづくりを考える“子どもまちづくり協議会を開いて、自分たちの考えを発信しよう”」総時数 40 時間, 対象 6 年 1 組児童: 26 名)

第 6 学年のテーマは「まちづくりへの参画」である。なお、本単元の学習指導計画を表 2 に示す。

表 2 総合的な学習の時間の学習指導計画 (総時数 35 時間)

<p>第一次 「大蔵のまち」全体について考え、学習課題を設定しよう (8)</p> <p>1 これまでの学習活動から「大蔵のまちのよさ」を話し合う。 3年「たくさんのお花があるまち」、4年「元気な高齢者がいるまち」、5年「大蔵川を中心とした自然にあふれるまち」等さまざまな「よさ」について子どもたち相互で意見を出し合う。 2 現在の「大蔵のまち」でテーマになっていることについて話し合う。 (1) 大蔵のまちの中心に位置するスーパーマーケットが閉店することについて意見交換をし、考えられることについて話し合う。 (2) 地域のさまざまな活動の母体となっている「大蔵まちづくり協議会」について知り、G.Tを組んでどのような活動をしているか話を聞く。 (3) G.Tの話をまとめる。 3 単元の学習課題を設定する。 (1) G.Tの話、「大蔵まちづくり協議会」の活動について整理する。 (2) 学習課題を設定する。</p> <p>学習課題 わたしたちのまちのよさをもう一度調べ、わたしたちが考える「よりよいまちづくり」を、まちづくり協議会へ発信しよう</p>						
<p>第二次 大蔵のまちのことを、もう一度調べよう (16)</p> <p>1 調べたいことでグループディスカッションをして活動内容を定める。 (1) 活動グループの確定、チーム分けをする。 (2) 活動内容を定める。 2 大蔵のまちの「よさ」について調べたいことを立てる。 3 探検別グループに分かれて調べ活動を行う。 (1) 調査方法を定める。 (2) 調べる内容を考える。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: left;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <p>【大蔵川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵川には、たくさんの植物や生き物がある。 大蔵川の水面はとてもきれい。 きれいな大蔵川を大切にしようとして活動している人たちがいる。 </td> <td style="width: 33%;"> <p>【年長者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年長者の車の職員さんたちは、地域の年長者の方のために、たくさんのお話をしている。 まちのために年長者の方を大切にされている。 </td> <td style="width: 33%;"> <p>【景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵のまちは自然や山に囲まれている。きれいな景色が見どころになっている。 自然を楽しみにしている人がある。 </td> </tr> <tr> <td> <p>【公園】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめる遊具がたくさんある。 たくさんのお花のまちが利用されている。 </td> <td> <p>【まち協】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちのことについて、問題を探して解決しようとしている。 まちをよりよくしようとして活動している。 たくさんの方が協力している。 </td> <td> <p>【大蔵のまちの人】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵のまちに住む人たちは、やさしい人が多い。 たくさんのお話を聞かされた。 たくさんのお話を聞かされた。 </td> </tr> </table>	<p>【大蔵川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵川には、たくさんの植物や生き物がある。 大蔵川の水面はとてもきれい。 きれいな大蔵川を大切にしようとして活動している人たちがいる。 	<p>【年長者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年長者の車の職員さんたちは、地域の年長者の方のために、たくさんのお話をしている。 まちのために年長者の方を大切にされている。 	<p>【景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵のまちは自然や山に囲まれている。きれいな景色が見どころになっている。 自然を楽しみにしている人がある。 	<p>【公園】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめる遊具がたくさんある。 たくさんのお花のまちが利用されている。 	<p>【まち協】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちのことについて、問題を探して解決しようとしている。 まちをよりよくしようとして活動している。 たくさんの方が協力している。 	<p>【大蔵のまちの人】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵のまちに住む人たちは、やさしい人が多い。 たくさんのお話を聞かされた。 たくさんのお話を聞かされた。
<p>【大蔵川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵川には、たくさんの植物や生き物がある。 大蔵川の水面はとてもきれい。 きれいな大蔵川を大切にしようとして活動している人たちがいる。 	<p>【年長者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年長者の車の職員さんたちは、地域の年長者の方のために、たくさんのお話をしている。 まちのために年長者の方を大切にされている。 	<p>【景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵のまちは自然や山に囲まれている。きれいな景色が見どころになっている。 自然を楽しみにしている人がある。 				
<p>【公園】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめる遊具がたくさんある。 たくさんのお花のまちが利用されている。 	<p>【まち協】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちのことについて、問題を探して解決しようとしている。 まちをよりよくしようとして活動している。 たくさんの方が協力している。 	<p>【大蔵のまちの人】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大蔵のまちに住む人たちは、やさしい人が多い。 たくさんのお話を聞かされた。 たくさんのお話を聞かされた。 				
<p>第三次 「子どもまちづくり協議会」を開いて、自分たちの考えをまち協に提案しよう。(16)</p> <p>1 パンフレットをもとに、「自分たちができること」を話し合う。 2 「第一回子どもまちづくり協議会」を開く。 (G.Tにも参加していただき、アドバイスをもらう。) 3 友達・ゲストティーチャーの意見を基に工夫・改善を行う。 4 「第二回子どもまちづくり協議会」を開く。 (ここでのG.Tの活用は、「アドバイザー」として、一緒に考える) 5 自分たちの考えをまとめ、発信する 他地域(瀬戸くば東区役所や東区内の市民センターへ)へ配布し、掲示をお願いする 6 第一単元の振り返りを行い、次単元のまちづくりのために実践するための見通しをもつ。</p>						

本単元では、これまで5年間の生活科と総合的な学習の時間の学習を通して得た大蔵のまちに関する情報を想起して再調査をする。また、大蔵のまちを、より住みやすいまちにするためにはどうしたらよいかを考えることを通して、まちの一員としての自覚や地域を愛する心情を育てることを

ねらいとした。さらに、本単元では自分たちが生活するまちをよりよくする取組を行っている「まちづくり協議会」と連携することで、実際にまちづくりに取り組んでいる地域の方々と交流することを通して、地域をより大切にする心情を深めていく。そして、これまで身に付けてきた探究のプロセス(話し合いの仕方やインタビューの仕方、まとめ方や発表の仕方等)における学習成果を本学習段階で生かすことにより、総合的な学習の時間の学びが一層充実したものになることや「思考ツール」を効果的に活用させることで、探究の過程を充実させることを意図した。

(4) -1 大蔵のまちのよさを再認識させる指導の実際

子どもたちに、自分が暮らすまちに対しての愛着をより強くもたせるようにするため、地域の「大蔵まちづくり協議会」との連携を図る単元構成を行った。これまでの1・2年生での生活科の学習、3年生から5年生までの総合的な学習の時間において、まちの多くの方々や対象とのふれ合いの中で、大蔵のまちには素晴らしい人やもの、こと(行事など)が存在することを多くの児童が理解している。実際に、本単元の導入時に行ったアンケートにおいて、「大蔵のまちは好きですか。」という設問の回答率は、100%であった。理由として、「まちのためにたくさんの努力をしている人がいる。」「大蔵川を中心とした自然がたくさんあるところ。」「高齢者の方々が元気である。」と記述していた。しかし、「大蔵のまちをよりよくするためにまちの人はずどのようなことをしているか知っていますか。」という設問に対して、「知らない。」「考えたことない。」と回答した児童が35%存在していた。このことから、大蔵のまちについての理解や愛着はあるものの、そのまちの発展を陰で支えている人たちが、その思いを捉えることができていない児童が少なからず存在することが分かった。そこで、地域の「大蔵まちづくり協議会」と連携し、自分たちが生活するまちのことを考え、自分たちの考えを提言していく学習活動を設定することにした。そうすることで、まちをよりよくしたいと活動する人たちがその思いにふれさせ、地域に対するより深い愛着をもたせていくことを意図した。

また、本実践では、単元に入る前に大蔵のまちで5年間営業をしてきたドラッグストアが、平成29年12月に閉店することを取り上げた。ここでは、「近くコンビニよりも商品の値段が安く、いつも利用していたのに困る。」や「近くにスーパー

マーケットがないので不便になる。」等の生活に視点をおいた意見が出された。そこで、「今の状況を改善するためには、どうしたらよいか。」と発問すると、「新しい店を作ったらいいと思う。」や「閉店するには理由があるのかもしれない。」等の意見が出た。その後、児童から「まちについて、詳しい人に聞いてみよう。」という提案があったので、まちづくり協議会の会長をGTとして招き、大蔵のまち全体のことやまちづくりのためにどのような活動をしているのかということについて話していただいた。ここでは、児童がまちづくり協議会の会長に話していただいたことをまとめていく中で、「まちづくり協議会の活動は、まち全体のことを考えたものだった。」「多くは話し合いで決まっているみたいだから、自分たちの授業や学級会での活動と似ている。」「自分たちもこのまちづくり協議会のように、まちのことを話し合って、大人に提案してみよう。」という意見が出された。

図3は、6年1組まちづくり協議会を開いた際の様子である。



図3 6年1組まちづくり協議会の様子

ここでは、まちづくり協議会の会長や協議会の構成員の方も児童の話し合い活動と一緒に参加してもらった場面を設定した。児童たちは、自分が生活するまちをよりよいものとするために「閉店した地域のドラッグストアの再利用」、「地域のおでかけタクシーの活性化」、「地域の人に参加できるイベントの企画」、「公園をきれいに保つためのゴミ箱の設置」などの意見を検討した。その中で、自分たちの考えのもとになる資料を提示したり、そのことについての様々な意見を出し合ったりすることを通して、大蔵のまちをよりよくしていく提案内容を整理していった。

単元の終末段階において、6年1組まちづくり

協議会で話し合った意見をもとに、自分たちの考えをまちづくり協議会に提案するために、ビデオレターにまとめ、毎月1回行われるまちづくり協議会において紹介した。これらの活動を通して、児童たちは、まちづくりに対する参画意識を高めるとともに、大蔵のまちのよさを再認識したことを実践後の感想からも読み取ることができた。

(4) -2 他教科等との関連と思考ツールを生かした指導の実際

本実践では、単元全体を通して、まちづくりについての考えを深めさせるために、対話的な活動を多く設定した。また、総合的な学習の時間の学習だけではなく、他教科の学習の中でも対話的な活動を多く設定することを通して、自分の考えを深めていく学習を日常化していくことにした。

第一次の学習においては、まちづくり協議会に自分たちの考えを発信するために、まちのこを見つめ直す学習を展開した。その際に、これまでの3～5年生までの総合的な学習の時間で学んだことを生かすために、国語科「ようこそ、わたしたちのまちへ」の学習との関連を図った。ここでは、自分たちのまちのことをパンフレットにまとめる学習を本単元で取り入れ、大蔵のまちのよさを再発見するとともに、このまちをよりよくするための考えを深める活動を促していった。

また、本単元では、探究の過程において収集した資料や情報を整理・分析する学習活動をより充実させるために、「思考ツール」を活用した。この思考ツールは、総合的な学習の時間に特化して活用するのではなく、他教科の学習活動や特別活動等においても使用することで、児童が様々な場面において自然に活用することができるようにした。

図4は、大蔵のまちのよさについてパンフレットを作成する際に、数多くの人々の考えや活動があることに気付くために、「クラゲチャート」を活用した板書例である。

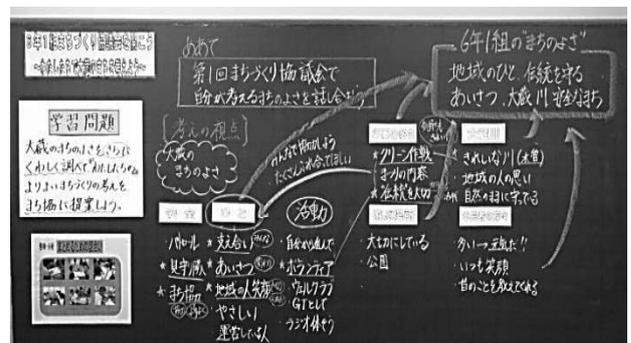


図4 「クラゲチャート」を活用した板書例

今回、総合的な学習の時間において思考ツールとして活用したクラゲチャートについては、社会科における戦後の日本の国際社会への復帰について考えをまとめる際に、「経済の発展」、「国際社会への復帰」、「日本の国内の安定（日本国憲法の制定）」が影響を与えたことについて話し合い、発表する際にも子どもたちからの提案により活用した。

図5は、大蔵のまちをよりよくする提案をまとめる際に、「6年1組まちづくり協議会」で話し合った意見を集約する学習活動で、「ボーン図」を活用した板書例である。



図5 「ボーン図」を活用した板書例

このように総合的な学習の時間の探究活動と国語科の学習内容との関連化を図ったり、社会科の学習におけるクラゲチャートやボーン図等の思考ツールを用いて考えを整理する活動を総合的な学習の時間の探究過程において設定したりして、他教科等の学習内容や学習活動との関連化を図りながら指導実践を行った。

(4)-3 総合的な学習の時間の実践のまとめ

本実践後のアンケートの中で、「大蔵のまちについての考えが深まりましたか。」という設問に対して、「深まった。」と回答した児童が90%に達した。「自分たちが関わることができたことがうれしかった。」「まちのよさについて考えることができた。また、自分たちの生活について考えている人がたくさんいた。それを知ったことがうれしかった。」「このまちを自分たちでもよくしていこうと考えている。」「中学校でもまちに関われる学習がしたい。」という自由記述の内容からも、本単元を通して地域への愛着を深めるとともに大蔵のまちのよさを再認識したことを指摘することができよう。また、本実践では総合的な学習の時間の探究過程における話し合い活動を充実させるために、教科等の学習の中で、思考ツールを活用する対話的な学習活動を数多く設定した。特に調べたことをまとめる場面において、ポートフォリオを開きなが

ら思考ツールを活用して話し合い活動を行う姿が日常的に見られるようになった。さらに、教科の学習においても、算数科の学習では前時の学習ノートを開いて本時の学習の解決に思考ツールを活用したり、振り返りを行ったりする場面が増加した。社会科の学習においては、話し合い活動の中で思考ツールを活用して資料を整理したりするなど、対話的な活動を通して、学びを深めていく姿が見られるようになった。このように、教科等の学習で身に付いた力が総合的な学習の時間の中で生かされ、また総合的な学習の時間で身に付けた力が教科等の学習の時間で生かされていった。

3. 本研究の成果と課題

本研究では、生活科及び総合的な学習の時間の課題やカリキュラム・マネジメントの要点及び拙稿(2017)で指摘した課題を踏まえて、児童が大蔵のまちのよさを再認識し、地域をより一層愛することができるようにするために、大蔵の人・もの・こと・自然を教材とした単元構成を行った。また、生活科や総合的な学習の時間が他教科における学習の活用や補完の場となり、確かな学力を身に付けることができるようにするために、他教科等との関連を明確にした年間カリキュラムを作成したり、思考ツールを活用して話し合い活動を充実させたりする実践を展開してきた。

ところで、新学習指導要領に示された、カリキュラム・マネジメントの要点を踏まえて、生活科・総合的な学習の時間の単元構成を行う際には、校長を中心としつつ、教科や学年を越えて、学校全体で取り組んでいくことができるよう、学校経営方針を教職員に常に意識させることが必要であると考えた。そこで、本年度の学校経営方針の要点を校長から教職員に提示する際に、学校経営方針のめざす学校像、生徒像、教師像を「挨拶」、「笑顔」、「元気」という平易で覚えやすいキーワードに整理した。さらに、この学校経営方針のキーワードを教職員に限らず、児童や保護者、地域住民にも強く印象付け、浸透させることをねらいとして、全児童からデザインを募集して大蔵小のキャラクターを作成することにした。この取組については、児童会活動の企画委員会を中心に全校児童が本年度の生活科・総合的な学習の時間の実践と併行して、6月から半年間にわたって取り組み、図7に示すキャラクターを作成した。

これは、全児童の原図を企画委員会と職員会議

で絞り込んだ3点の原図を基に完成したものである。

表3は、今回採用された3人の原図に込めた思いや願いを要約したものである。この記述内容からも、大蔵のまちのよさを児童が再認識したことや地域を大切に



図5 大蔵小のキャラクター

する姿勢や愛着をもっていることが読み取れる。なお、本キャラクターは、大蔵小学校のキャラクターにとどまらず、大蔵のまちづくりのシンボルとして共有されることになった。

表3 キャラクターに込めた思いや願い

- ・私は、大蔵のまちのシンボルであり、宝物でもある大蔵川や「オヤニラミ」「ホタル」などの生き物、そして大蔵の景色や自然環境などをアピールしたいという思いを込めてキャラクターを描きました。これからもっと、大蔵小学校やおおくらのまちが、「あいさつ」「えがお」「げんき」いっぱいになったらいいなと思います。」
- ・私は、人や魚、虫などの生き物にもとても愛されるキャラクターを描きました。そして、このキャラクターには、大蔵小やおおくらのまちに、「あいさつ」「えがお」「げんき」をたくさん広げてもらいたいという願いを込めました。大蔵のまちが人や生き物にとってこれからも優しいまちになったらいいなと思います。」
- ・私は、キャラクターに大蔵のまちの自慢である大蔵川のホタルを描きました。そして、笑顔で元気に挨拶している表情を表しました。このキャラクターの住んでいる大蔵のまちは、友達がたくさん増えるまほうをもっています。これからはますます大蔵のまちがみんな仲よく暮らしやすいまちになったらいいなと思います。」

また、本実践においては、生活科・総合的な学習の時間における学習が他教科の活用や補完の場とすることにより、主体的な学習態度を身に付けさせることも意図した。このことについて、平成29年4月に実施された6年生対象の全国学

力・学習状況調査及び平成30年1月に小学4・5年生対象に実施された北九州市学力・学習状況調査の児童質問紙の回答結果を見ると、「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」という設問に対して、平成30年1月に調査した4・5年生ともに約97%以上の子どもたちが肯定的に回答していた。また、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文書に書いたりすることは難しいと思いますか。」という設問については、4月当初の6年生の回答率と比較して、1月に調査した4・5年生ともに20ポイント以上も低下した。以上のことから、子どもたちは、話し合い活動に積極的に臨むとともに、自己の考えを説明したり文書化したりすることに対する抵抗感が軽減されるなど、主体的な学習態度の育成に寄与できたことも本実践の成果として指摘することができよう。

今後の課題は、カリキュラム・マネジメントを踏まえた主体的・対話的で深い学びを実現する生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発をより一層確かなものとするとともに、指導実践の更なる蓄積を図ることである。

主な引用・参考文献

- 文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 総合的な学習の時間編」 2017年
- 花島秀樹 「地域の自然を生かした総合的な学習の時間の実証的研究」 福岡教育大学大学院教職実践専攻 年報 第7号 2017年
- 文部科学省 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」 2016年
- 田村 学 「授業を磨く」 東洋館出版社 2015年
- 宇佐美寛、池田久美子 「対話の害」 さくら社 2015年
- 日本生活科・総合的学習教育学会 「生活科・総合的実践ブックレット」 2013年
- 藤村裕一 「アクティブ・ラーニング対応 授業改善のための学習指導案」 ジャムハウス 2015年
- 寺尾慎一 「豊かな学びをひらく授業の構想」 梓書院 2009年
- 寺尾慎一 「総合的学習の発想力・構想力」 明治図書 2001年
- 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 2007年
- 高浦勝義 「総合学習の理論・実践・評価」 黎明書房 1998年

謝 辞

本研究を支えていただいた大蔵の地域の皆様、そして子どものために本研究に取り組んでくれた全教職員の皆様に、謝意を表します。